

ふりがな	ながえ ゆうま		
氏名	長江 佑磨		
学校	愛知県立愛知工業高等学校	学年	2年

私たちが毎日当たり前のように使っている電気。私たちの生活に欠かすことのできない電気。現在、日本ではその約90%を火力発電で賄っています。しかし、この火力発電は地球温暖化に影響を与える温室効果ガス、特に二酸化炭素を放出することから世界的に問題視されています。それにも関わらず、日本は火力発電所事業への支援を続け、年間化石賞という不名誉な賞を授与されてしまったのです。この化石賞というのは簡単にいえば“温暖化対策に最も消極的な国”に送られる賞なのです。そんな賞をもらうくらいに日本は火力発電に頼りきりなのです。ではなぜ、そこまで火力発電にこだわるのか。それは、日本には火力発電のほかに頼れる発電方法がないからです。水力発電、風力発電は発電所を作れる土地がなく、太陽光発電は天候に左右されるため、安定しません、原子力発電は効率こそいいものの万が一事故が起きたら、核廃棄物の処理はどうするのかなどの問題が山積みです。じゃあどうすればいいのか。そこで私は考えました。作れる土地がないのなら海上に作ればいいと思います。風力発電なら海上でも風はあると思うので可能だと思います。また、発電した電気は蓄電器を積んだ船で輸送するか、海底を通り発電所と対岸をつなぐケーブルをつなげば可能だと思います。これは、青函トンネルなどを作った日本の技術があれば不可能ではないと思います。次に点検の問題です。これは、発電機を普段は浮かせておき碇のようなもので位置を固定し、点検したいときはその碇をはずし地上に持ち帰ればできます。私のような初心者が考えた理論では穴も多いと思います。これ以外にも方法はあると思います。ただ、火力発電に頼らない体制を整える必要があるのは確実です。私も火力発電のない日本を創る貢献をしたいと思います。